

諸外国の美術館・博物館における 美術工芸品の公開に関する取扱規定

※日本美術を所蔵する海外の美術館・博物館の担当者への聞き取り調査

<メトロポリタン美術館（アメリカ）>

※国や州等による公開期間や移動回数のルールなく、館のガイドラインを策定している

- ◆ 基本的な公開期間：
6ヶ月公開の後、5年間公開しない。ただし、油絵、陶磁器などは公開期間を設けていない
 - ◆ 版画、染織品の公開期間：
3ヶ月公開の後、5年間公開しない。ただし、コンサバターとキュレーターとの協議により、期間を前後させることが可能。この場合、最終決定はキュレーターが行う
※陶磁器、印刷物、など、材料ごとにコンサバターがいる
- (参考1) アメリカの美術館・博物館は、TMSという民間会社が開発したデータベースシステムにより、公開履歴等が検索できる
(URL)
<http://www.metmuseum.org/art/collection/search/437127?sortBy=Relevance&ft=e+japone&offset=0&rpp=20&pos=1>
- (参考2) 収蔵品に関する高画質の画像が無料でダウンロード・使用可能
- (参考3) メトロポリタン美術館では、「Development Office」という部署があり、約30名（うち半数が常勤職員）がファンドレイジングの専門として勤務。ただし、特別展のファンドレイジングには、キュレーターが欠かせないとのこと

<フリーア美術館（アメリカ）>

※国立スミソニアン協会の美術館

※国や州等による公開期間や移動回数のルールなく、館の修理工房がガイドラインを策定している

- ◆ 日本美術の公開期間：
6ヶ月間の公開を上限としてその後5年間公開しない。3ヶ月の公開を2回行うことも可能

<ボストン美術館（アメリカ）>

※国や州等による公開期間や移動回数のルールなく、キュレーターとコンサバターが調査し、キュレーターが判断している

- ◆ 紙本、絹本の公開期間：
一般的に6ヶ月公開の後、5年間公開しない

<ギメ美術館（フランス）>

※フランス文化省による推奨規定はあるが、公開期間は明示されていない

※個別事案については、キュレーターとコンサバターの協議の上、キュレーターが判断

- ◆ 紙、染織、漆器の公開期間：
一般的に3年間で3ヶ月公開（若しくは1年で1ヶ月公開）が標準
- ◆ 石、土、金属、陶器の公開期間：
一般的に恒常的に公開

<韓国中央博物館（韓国）>

※国や州等による公開期間や移動回数のルールはない

- ◆ 紙本、拓本の公開期間：
一般的に3ヶ月間の公開の後、9ヶ月間公開しない